



特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンター 広報誌

# OICI だより

Take  
free

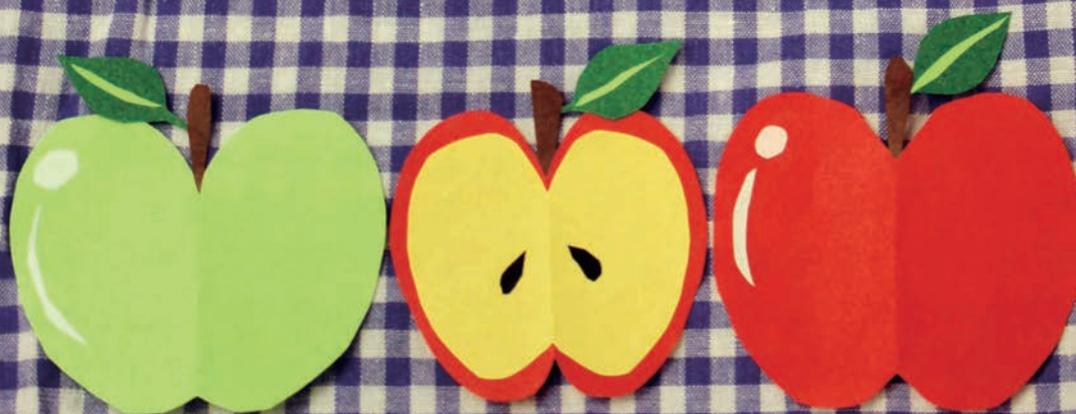
Osaka International Cancer Institute

2020 創刊号

## 新センターの設立

### ★ CONTENTS

- 02 総長からのメッセージ「『OICI だより』 発刊によせて」
- 03 新設部門のご紹介「希少がんセンター」
- 04 新設部門のご紹介「内視鏡センター」
- 05 新設部門のご紹介「乳腺センター」
- 06 新設部門のご紹介「リソースナースセンター」「ゲノム病理ユニット」
- 07 寄附のご報告、がん相談支援センターより
- 08 メディア掲載情報



# 「OICI だより」 発刊によせて

大阪国際がんセンター 総長 松浦 成昭

この度、「OICI だより」を発刊することになりました。これまで診療の上で必要なことについては、チラシやパンフレットなどでお知らせしてきましたが、もう少し幅広くいろいろなことをお知らせしようと、このような冊子の形式にしました。大阪国際がんセンターのことを皆さまによく知っていただき、コミュニケーションを図っていきたく思いますので、よろしくお願ひします。

当センターは名前の通り、がんだけを対象にしている医療機関です。わが国ではがんで亡くなられる方が非常に多いため、また、がんを克服された方でもいろいろな問題点があり、その解決のために各地でがん専門の医療施設が作られており、私たちのセンターもその一つです。

がんの医療は近年、大きく変わってきました。かつてがんの治療成績は不良で「不治の病」と恐れられた時代がありましたが、最近では、がんの医療は着実に向上してきました。治療成績を示す5年生存率は現時点では7割に達していると推定されており、がんはもはや不治の病ではなく、治り得る病気になっています。一方で、がんになる人は増加の一途をたどり、国民の2人に1人がかかるありふれた病気になり、がんにかかることはそんなに珍しいことでも、特殊なことでもなくなりました。また、以前にはがんに対するイメージは極めて悪く、患者さんはがんになったことを隠したのですが、今では普通の病気に近い感覚になってきて、世間ががんを見る目も変わったと思います。

がんの治療法は拡大してきて、手術以外の治療法も行われるようになってきましたし、病院から一方的に治療方針を伝えていた時代に比べて、今では患者さんとよく

相談して、複数の選択肢の中から治療方針を立てることが多くなってきて、患者さんにもいろいろな情報が必要になってきました。以前は入院治療が中心でしたが、最近はかなり治療が外来で行われるようになったので、患者さんは仕事や学校に行き、普通の生活をしながら病院に通うようになってきました。病院は治療を行うとともに患者さんが普段の生活を送るためのサポートをする必要が出てきました。また、以前はがんを治すことだけに全力を挙げて、治療の結果生じる障がいや生活の不自由さに大きく注意が払われることはほとんどありませんでしたが、現在では治すことに加えて、QOL（生活の質）も非常に重視されるようになりました。がんが治ればよいというものではなく、もしかしたら治すことよりも、毎日の生活を送ることの方が大事なのではないかと考える患者さんもおられるようになり、患者さんからのご要望も多様になりました。治療成績が上がるにつれて生存者が増えて、自分の体験を語る方が多くなり、その体験を次の患者さんに活かせるようになってきました。

このような状況から医療機関はまず、がんを治すために最善を尽くすことが必要ですが、それに加えて、治療に伴うつらさ、不自由さをできるだけ軽減するとともに、病気になる前と同じような生活を送ることができるように支援することも求められるようになりました。そのために私たちは患者さんと以前にも増して密接なコミュニケーションを築く必要があります。

当センターはもともと大阪府立成人病センターという名前で森ノ宮にありましたが、2017年春に現在の大手前に移転しました。そして、移転を単なる引越ではなく、新しく生まれ変わるきっかけにしたいと考え、名称を大阪国際がんセンターと改め、理念も「患者の視点に立脚した高度ながん医療の提供と開発」と一つにまとめ、「患者の視点」を一番最初に押し出して重要視する姿勢を打ち出しました。職員にはこの理念を徹底させた上で、各自が最善を尽くして医療内容の充実に努めてきました。また、患者さんのつらい気持ち、苦しみを少しでも和らげられるように、絵画の展示、音楽会の開催、お笑いの提供など、さまざまな催しを行ってきました。まだまだ十分ではないと考えており、さらに皆さまとコミュニケーションを取りたいという思いで本冊子を定期的にお届けすることにしました。ぜひ手に取ってご覧ください、気の付いたことがあればご意見いただくようお願い申し上げます。



総長 松浦 成昭

## 希少がんセンターを新設しました

### 希少がんセンター センター長 大植 雅之

がんの中には多くの人がかかるがんもあれば、患者数の少ないがんもあります。年間に人口10万人当たり6人未満とかかる人の少ないがんを「希少がん」と呼んでいます。希少がんは希少であるがゆえに、いろいろな課題があり、患者さんも医療機関側も困っているのが現状です。これを解決するために、当センターではこのたび、「希少がんセンター」を新しく創設しました。

これまでのがん医療は5大がん（胃、大腸、肺、乳、肝）を中心に行われてきて、希少がんの対策は遅れています。がんの専門病院にとっても、希少がんは数が少ないため、経験を積むことが難しく、診断が不正確であったり、標準治療が確立されていなかったりして一般的ながんに比べて遅れています。患者さん側も適切な情報を手に入れることが難しく、専門の医療機関がどこかわからず困っている方が多く見られます。この状況を少しでも改善することに希少がんセンターは全力を注ぎます。

希少がんセンターは多くの診療科・部門の医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、さらに基礎研究者、疫学研究者などの多職種で構成されています。診療面では的確な診断とベストの治療を実践することに加えて、新しい治療法の開発を推進します。また、多職種の連携で、患者さんの相談支援と情報提供に努めていきます。さらに、関西～西日本のがん診療拠点病院と連携して、希少がん診療のネットワークづくりを行い、東京の国立がん研究センターの希少がんセンターとも連携、さらに協力し、情報交換を行うことにより、わが国全体の希少がんの状況改善に努めていきたいと考えています。

希少がんセンターでは患者さん・ご家族、さらに医療関係者のご相談に対応するため「希少がんホットライン」を開設しました。われわれ希少がんセンターは今後希少がんの診断、治療の進歩に貢献してまいります。

### 希少がんホットライン

希少がんホットラインは専任の看護師（または社会福祉士）が、患者さん・ご家族、一般の方、医療機関スタッフからの「希少がん」に関するご相談をお受けします。

ご自身やご家族の希少がんについて知りたいこと、どこで診察を受けることができるか、どこでセカンドオピニオンを受けることができるかなど医療機関に関すること、希少がん治療中の生活のこと、などのご相談に対応いたします。

#### 【希少がんホットライン】

☎ 06-6945-1177

電話対応時間：月曜日～金曜日（祝日除く）  
午前10時～午後4時

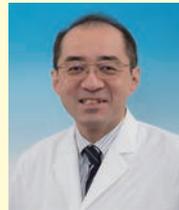
（ホットラインの利用に際して）

診断に関することや個別の病状への意見など医学的判断が必要な相談には対応できません。

相談は無料ですが、通話料金がかかります。

正確な情報提供のためにお名前などの個人情報を伺うことがありますが、匿名での相談を希望される場合はお申し出ください。

### 希少がんセンターメンバー ★★★★★



大植 雅之



屋木 敏也



松村 知子



池山 晴人



和田 美由紀



石川 淳



川崎 弥寿子



三好 康博



中川 嘉代

## 内視鏡センターを新設しました

内視鏡センター センター長 石原 立

2020年4月1日に「内視鏡センター」が新設されました。内視鏡センターでは多くの診療科の医師、看護師、臨床工学技師、その他のコメディカルスタッフが協力して診療にあたり、より高度で安全な診断治療を提供していかうと考えています。

内視鏡は呼吸器領域、肝胆膵領域、消化管領域における診断や治療のさまざまな場面で用いられています。呼吸器領域では、気管支鏡や気管支エコーを用いた肺・縦隔疾患の診断や肺癌に対するレーザー治療などが行なわれ、肝胆膵領域では、膵胆道がんに対する内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP）<sup>\*1</sup>や超音波内視鏡下穿刺吸引生検（EUS-FNA）<sup>\*2</sup>、胆道ドレナージ術<sup>\*3</sup>や十二指腸ステント留置術<sup>\*4</sup>などの治療、消化管領域では食道・胃・大腸がんの早期診断、内視鏡治療などが行なわれています。当センターでは、診療結果にもとづく研究報告も多数行っており、日本でトップレベルの内視鏡診療を行っています。

内視鏡を用いて行われる診断や治療は年々高度なものとなっており、以前なら外科手術が必要であったようながんにも、内視鏡治療が行なわれるようになってきています。それに伴い、これまでよりも高度な全身管理や麻酔技術が求められ、治療や麻酔管理のためにさまざまな機器が用いられています。内視鏡センターには、内視鏡技師の資格を持つ看護師や豊富な経験を有する看護師が多数在籍し、さまざまな機器を熟知し各種内視鏡処置の経験を積んだ臨床工学技師も在籍しています。多職種による連携で、高度化した内視鏡診療に万全の体制で臨めるようにしています。

また、内視鏡という共通の医療機器を通じて各領域の垣根が低くなっています。例えば気管支領域で使用されていたレーザー治療が食道がんに対する治療としても使



【写真・左から】道田知樹、大川和良、石原立（センター長）、熊谷融、倉橋順子

われるようになり、消化管領域で使われていた超音波内視鏡が気管領域でも使われるようになりました。自家蛍光内視鏡や狭帯域光内視鏡といった機器は消化管領域で開発され、食道がんや胃がん、大腸がんの早期診断やがんと非がんの識別、がんがどの深さまで広がっているかを診断するために用いられてきました。特に狭帯域光内視鏡は今や消化管内視鏡の診療に欠かせないものとなっています。

これらの技術は、気管支鏡や胆膵領域の内視鏡にも応用が試みられています。十二指腸の腫瘍に対しては、消化管の内視鏡切除技術と胆膵領域の胆管、膵管へのドレナージ技術<sup>\*5</sup>を組み合わせた治療が行なわれ、超音波内視鏡を用いた穿刺技術<sup>\*6</sup>は肝胆膵領域だけでなく、消化管や呼吸器領域でも使用されるようになってきています。

さらに今後は、人口の高齢化を受け、体へのダメージが少ない内視鏡治療の重要性がさらに増すことが予想されており、多種の疾患をもつ高齢者に対して複数科による連携が必要となります。このような状況に対応すべく、内視鏡センターでは各科の連携を深め、それぞれの患者さんに最適な治療を効率的に提供していきたいと考えています。また、各科の経験やアイデアをもとに、より先進的で安全な診断・治療の創出を行っていかうと考えています。

\*注釈

- \* 1…内視鏡を使って、胆汁や膵液が流れる管である胆管や膵管に造影剤を流し、これらの管に異常がないか調べる検査です。胆管のがんや膵臓のがんの診断に用いられます。
- \* 2…先端に超音波がついた内視鏡を用いる検査です。超音波で病気部分の内部をみながら、針を突き刺し内部の組織を取り出し、これを顕微鏡で調べます。膵臓のがんや、リンパ節のがん、消化管の粘膜下腫瘍などの診断に用いられます。
- \* 3…胆汁のうっ滞部に管を留置し、うっ滞部の胆汁を取り除く治療です。がんや胆石などが原因となり、胆汁の流れが遮断されて胆汁がうっ滞した際に行われる治療です。
- \* 4…細くなった十二指腸に管を留置し、十二指腸を拡げる治療です。主にがんが原因で十二指腸が細くなり、食事が通過しなくなった場合に行われる治療です。
- \* 5…胆汁や膵液が流れる管である胆管や膵管のうっ滞部に管を留置し、うっ滞部の液を取り除く治療です。がんや胆石などが原因となり、胆管や膵管の流れが遮断されてうっ滞した際に行われる治療です。
- \* 6…病気の内部に針を突き刺し、内部の組織を取り出す処置の技術です。

## 乳腺センターを新設しました

乳腺センター センター長 中山 貴寛

2020年4月1日より、当センターは「乳腺センター」を新設しました。

「乳腺センター」は「乳腺内分泌外科」と「腫瘍内科」が中心となり、「放射線腫瘍科」「形成外科」「看護部（乳がん看護認定看護師）」「薬剤部（がん専門薬剤師）」「遺伝子診療部（認定遺伝カウンセラー）」「リハビリテーション科」で構成されています。

当センターでは、これまででも複数の職種による「チーム医療」を行ってまいりましたが、診療体制をさらに強固で機能的なものとするため、「乳腺センター」を新設しました。

乳がんの治療は、「手術」「抗がん剤治療」「放射線治療」を組み合わせた総合的な治療が原則となります。手術は、従来の乳房切除や乳房温存手術に加えて、乳房再建手術にも健康保険が適用されることになり、患者さんごとに手術の方法を選択していただけるようになりました。

また抗がん剤療法に関しては、これまでの研究から乳がんは少なくとも4つの種類に分類されることがわかっており、その種類やそれぞれの患者さんの病気の状態や年齢などさまざまな条件を考慮して、使用する抗がん剤や投与期間を決めています。

またAYA世代<sup>\*1</sup>の患者さんにおいては、抗がん剤治療による妊孕性<sup>\*2</sup>への影響も考慮し、外部の生殖医療専門医と連携して治療を行うなど、患者さんの一生を見据えた治療が求められます。新しい抗がん剤も次々と開発され、乳がんの治療成績が改善する一方、過去に経験しなかった副作用も経験するようになり、これまで以上に幅広い知識が求められるようになってきました。

さらに、遺伝子検査やゲノム医療も日常の診療として行われるようになり、遺伝性乳がん、卵巣がんの方に対するリスクを抑える手術にも健康保険が適用され、ご家族を含め、治療方針についてご相談をすることが増えてきました。

また、乳がんの手術後の放射線治療に加え、がんが再発した患者さんに対する複雑で精度の高い放射線治療や、手術後に関節が動かなくなった場合やリンパ浮腫に対するリハビリ指導など、乳がん診療は多岐にわたり、ますます高度化かつ複雑化してきています。

このような乳がん診療におけるさまざまな課題について、専門家がそれぞれの専門性を発揮し、状況に応じてリーダーシップをとって、患者さんに最良の治療を提供できる診療体制として「乳腺センター」を位置づけています。「乳腺センター」の使命は、「患者さんへの十分な説明による病気の正しい知識の習得と理解のもとに、それぞれの患者さんに合った治療法を選択していただく」ことと考えております。そして、私たちはお一人おひとりの患者さんにご満足いただけるよう、総合的に専門性の高いハイレベルな医療を提供してまいります。

今後とも皆さまのご支援を賜りますようお願いいたします。

\*注釈

\*1…「AYA (Adolescent and Young Adult) 世代」とは思春期～若年成人(30歳代程度まで)の患者さんのことです。

\*2…「妊孕性(にんようせい)」とは妊娠する力のことです。



乳腺センターメンバー

## リソースナースの実践・活動報告会 & リソースナースセンターの開設

リソースナースセンター センター長 北坂 美津子

リソースナースとは、当センターの看護外来に関わる資格看護師の総称です。



昨年度は、現在の大手前の地に移転後より検討してきた「看護外来の再編と拡充」に取り組み、令和2年3月27日に、実践・活動報告会を開催しました。看護師・看護外来に関連する診療科をはじめ、総長の松浦も参加し、活発な意見交換のもと、見えにくかった看護外来での活動を幅広く知っていただく機会となりました。

そして、本年4月、リソースナースセンターが設置されました。リソースナースセンターの設置目的は、相談事を抱える患者家族・多職種をつなぐハブとなる人材を組織化し、がん看護を牽引・発信することです。

リソースナースセンターでは、従来からの構想であった「がん患者サポート外来」を開設し、がんと宣告された段階から患者さんと関わり、患者家族の潜在的なニ

ーズの顕在化、一步踏み込むことによるタイムリーな介入・サポートなどに取り組んでいます。

4月から動き始めたばかりですが、まずは、クイックイン外来\*での問診をきっかけに、より多くの方に私たちの活動を知っていただき、リソースナースを活用いただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

\* 医療機関よりご紹介いただいた患者さんの初診日に、必要な検査を受けていただき、早期にがんの診断と治療につなげるものです。



## 大阪国際がんセンターの躍進を目指して。ゲノム病理ユニットが発足

ゲノム病理ユニット ユニット長 中村 ハルミ

2020年4月、研究所の一角に2名体制の小さな組織として、ゲノム病理ユニットが発足しました。当センターが西日本のがん診療とがん研究の中心的役割を担うには、病理形態学に遺伝子解析による客観性を組み合わせた新しい技術の導入が不可欠です。ゲノム病理ユニットの存在意義はそこにあります。

ゲノム病理ユニットは次世代シーケンサー\*<sup>1</sup>と自動免疫装置を備え、さらに蛍光顕微鏡、バーチャルスライド装置\*<sup>2</sup>が設置される予定です。ゲノム病理ユニットは、これらの先進的な機器を駆使し、がんの診断と治療に直結する研究成果を挙げ続けることで皆さまのお役に立ちたいと考えています。

一方、皆さまがよくご存じの自動車と同じように、せっかくの高価な機器も継続的に動かし続けなくては故障してしまいます。それには引き続き、皆さまのご理解とご支援なくしては大変困難なことです。今後ともゲノム病

理ユニットの発展にご協力をよろしくお願い申し上げます。

\* 1…次世代シーケンサー 体の設計図である約2万個の遺伝子は、4つの文字(ATGC)のうち3つの組み合わせ(ATCやGGCなど)が連なった長い暗号のようです。複数の遺伝子の暗号を一度に解読する機械が次世代シーケンサーです。

\* 2…バーチャルスライド装置 がん組織などの病変は、顕微鏡で観察できるように、薄くスライスされた組織片としてスライドガラスに貼り付けられています。この病変全体をパソコンで観察できるように画像データとして取り込む機械がバーチャルスライド装置です。



ゲノム病理ユニット説明会の様子

今月もさまざまな個人や法人の方々から、貴重なご寄付をいただきました。ありがとうございます。  
この温かいお心遣いに感謝するとともに、このご厚意に報い得るべく、これからも患者さんにより良い医療とサービスを提供してまいります。

### 新型コロナウイルス感染症対策 にかかる寄附

天王寺ロータリークラブ、ヘアサロンこもれび、三栄工業株式会社、水三島紙工株式会社、大阪大学、株式会社モンベル、株式会社ベーター・プラス、株式会社日立製作所ヘルスケア関西支店、株式会社AIメディカルサービス、アークビル株式会社、小西 民子

### 一般寄附

松本 慎一、米田 尚弘、新谷 直喜、綿井 千春、石井 秀樹、本田 学、中川 美保、傘 眞澄、坂田 尚夫、株式会社いせや、株式会社ハイメディック、石原 淳平、堀内 しづ子、明治安田生命保険相互会社大阪中央支社、松浦 健、石川 敏、中野 公治、石川 明日香、杉本 順子、鈴木 直恵  
匿名者 9 名

### 現物寄附

株式会社宅都ホールディングス、株式会社エイチ・ツー・オースタイルネット

敬称略・受領日順／ご希望者のみ掲載  
2020年6月1日～9月30日

## はい、こちら「がん相談支援センター」です

がん相談支援センター センター長 池山 晴人

【file 001】

### 「がん相談支援センター」ってどんなところ？

最新データによると、生涯でがんにかかる確率は、男性 65.5%、女性 50.2%<sup>\*</sup>、また 5 年相対生存率は全がん平均で 64.1%<sup>\*</sup>となり、今やがんは「多くの人」が「長く付き合う」病気となりました。

このことを厚生労働省は「がんとの共生」と表現し、病気の理解、心の悩み、がん治療法の選択、がん治療と仕事や学業との両立、経済的な困りごと…など、がん診断以降の生活で起こるさまざまな困りごとを相談でき、正確で科学的な情報で支援するため、全国 447 カ所のがん診療連携拠点病院に「がん相談支援センター」の設置を定めました。ここ大阪府では厚生労働省の指定に加え、大阪府が指定するがん診療拠点病院、計 67 病院に「が

ん相談支援センター」が置かれ、指定の研修を修了した社会福祉士、看護師などが相談員として日々相談をお受けしています。がん相談支援センターでは、その病院で診療を受けていてもいなくても相談を無料で受けることができます。また相談者の了解なく相談内容を第三者に伝えることはありませんので、安心してご利用いただければと思います。

次号からは多く寄せられる相談や世の中の動きから、役に立つ制度・情報やトピックスをお知らせしてまいります。どうぞお楽しみに！

★…国立がん研究センターがん対策情報センターより引用

### ♥ 面談（対面での相談）

病院 1 階 ⑥窓ロ 相談支援センター受付でお申し出ください

相談受付時間：月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）  
午前 9 時～午後 5 時

### ♥がん相談ホットライン

☎ 06-6945-1870（直通）

電話対応時間：月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）  
午前 10 時～午後 4 時

## メディア掲載情報

掲載月日	メディア	テーマ等	出演者
6月22日	Medical Tribune	「タバコ問題にかかる健康格差・社会格差の研究」	がん対策センター 疫学統計部 副部長 田淵 貴大
6月23日	NHK World 「Medical Frontiers」	新型コロナウイルスに対する免疫強化について	がん対策センター 所長 宮代 勲
6月26日	Eテレ 「あしたも晴れ！人生レシピ」	がん患者にお笑いを体験してもらい、免疫にどんな変化が起きるのかを調べた研究について	がん対策センター 所長 宮代 勲
7月10日	毎日新聞 (Web版)	梨田昌孝氏との対談企画 「新型コロナウイルスと喫煙」	がん対策センター 疫学統計部 副部長 田淵 貴大
7月14日	毎日新聞 (夕刊)	梨田昌孝氏との対談企画 「新型コロナウイルスと喫煙」	がん対策センター 疫学統計部 副部長 田淵 貴大
7月21日	読売新聞	「病院の実力」肺がんの解説	呼吸器外科 主任部長 岡見 次郎
7月25日	朝日新聞 「がん新時代 がんとともに」	メディカルレシピについて	病院長 左近 賢人 栄養腫瘍科 主任部長 飯島 正平
7月27日	産経新聞 (夕刊) 「健康教室 がんを知る」	メディカルレシピについて	病院長 左近 賢人 栄養腫瘍科 主任部長 飯島 正平
8月14日	読売テレビ 「情報ライブ ミヤネ屋」	腎細胞がんについて	泌尿器科 主任部長 西村 和郎
8月21日	日経 MOOK 日経実力病院調査 2020-2021年版	膵臓がん・解説 治療は手術前から	消化器外科 膵臓外科長 高橋 秀典
8月24日	産経新聞 (夕刊)	メディカルレシピについて (連載2回目)	病院長 左近 賢人 栄養腫瘍科 主任部長 飯島 正平
8月24日	産経新聞 (夕刊)	食道胃接合部がん 新しい手術法開発	消化器外科 胃外科長 大森 健
8月中	「がんサポート」(Webサイト)	胃食道接合部がんに対する内視鏡的診断と治療	副院長補佐・内視鏡センター長 石原 立
9月5日	NHK エンタープライズ オンラインフォーラム	「がんと生きる ところとからだ 私らしく」	がん相談支援センター長 池山 晴人
9月28日	産経新聞 (夕刊)	メディカルレシピについて (連載3回目)	病院長 左近 賢人 栄養腫瘍科 主任部長 飯島 正平

## OIC | だより 創刊号

特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構  
 **大阪国際がんセンター**

発行 大阪国際がんセンター  
 編集 事務局 総務・広報グループ  
 〒541-8567  
 大阪市中央区大手前 3-1-69  
 TEL.06-6945-1181 (代表)  
 2020年10月26日発行



### ◆電車でご来院の場合

地下鉄「谷町四丁目駅」北改札口から所要時間 徒歩約5分

### ◆お車でご来院の場合

東大阪線「法円坂出口」より約5分 / 東大阪線「森之宮出口」より約8分

oici  
<https://oici.jp/>



@oici.jp



※ QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。